

2月の窓

先日、歌手新沼謙治さんの「津軽恋女」という歌を久しぶりに聞きました。この歌に出てくる「津軽には七つの雪が降るとか **こな雪 つぶ雪 わた雪 ざらめ雪 みず雪 かた雪 春待つ氷雪**」というところがずっと気になっていたのですが、調べてみると、太宰治の小説「津軽」の冒頭に、「津軽の雪」として「**こな雪、つぶ雪、わた雪、みず雪、かた雪、ざらめ雪、こおり雪**」と書かれていることがわかりました。その後「東奥年鑑より」と出典が示されているのですが、小説の中では、それぞれの雪がどのような雪なのかの説明はありません。インターネットで調べたら、青森地方気象台で発行している「あおぞら彩時記2013年第7号今号の話題」に詳しい説明があり、概要を抜粋すると次のようになります。

昭和16（1941）年の東奥年鑑によると、「積雪ノ種類ノ名称」として「こなゆき、つぶゆき、わたゆき、みづゆき、かたゆき、ざらめゆき、こほりゆき」の七つがあり、「降雪ノ種類ノ名称」としては、「こなゆき、つぶゆき、わたゆき、みづゆき」の四つがあるとのことでした。つまり、七つの雪は積もった雪の名前で、降ってくる雪は四つということになります。では、いつ、誰が決めたのかということ、この七つの雪は、昭和15年頃に東北地方の気象台・測候所が協議して定めたものとのことでした。その詳細については、先ほどの「あおぞら彩時記2013年第7号今号の話題」で検索すると見ることができます。

2月4日が立春ですが、雪国ではまだ寒い日が続きます。そんな中で、春を待つ気持ちを詠んだ句もたくさんあります。

白き皿に 絵具を溶けば 春浅し……………夏目漱石

湯屋までは むねて行きけり 春の雪……………来山

1月17日と18日、大学入試センター試験が実施されました。1月の窓でも書いたように、今年の3年生からは、数学と理科の2教科については新しい学習指導要領に対応した試験が実施されることから、従前の学習指導要領に基づく教育課程を履修した卒業生に対して、経過措置が講じられることとなりました。そのため、試験の時間割や試験会場が昨年までとは異なり、さらに英語リスニングで使用するICプレーヤーが新しい機種になったこともあり、トラブルが生じるのではないかと心配もありましたが、大学側・高校側とも事前の準備や連絡を徹底したおかげで、県内6会場では、特に大きなトラブルもなく終了しました。

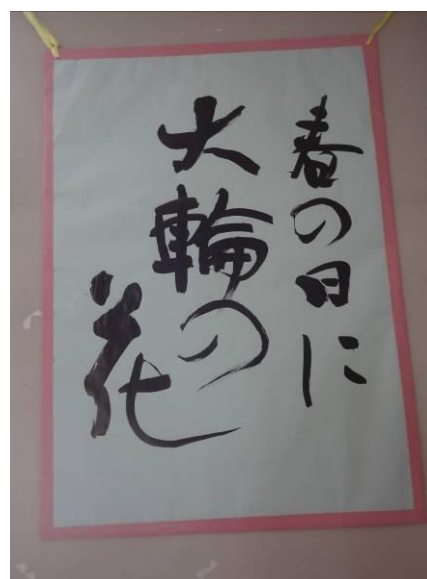
今年の3年生の約三分の二は山形大学での受験となり、残り約三分の一は県立保

健医療大学での受験となったため、職員も両会場に分かれて激励することになり、私も初日は山形大学に、2日目は保健医療大学に行ってきました。保健医療大学は、かなり広い駐車場があり、高校教員や保護者も構内の駐車場を使わせていただくことができました。さらに、食堂と講堂を控室として準備していただいたので、高校教員にとっては快適でした。

センター試験の2～3日前には、JRC部の生徒たちが、夕方3年生を激励してくれました。夕方から中庭でろうそくを使って何か描き始めたのですが、できあがったのは、ピースマークと「ファイト！」の文字でした。最初の写真は管理棟から撮影したもの、次の写真は3年生教室の方から撮影したものです。



試験の前日には、「出陣式」といって3年生を激励する会を開催しています。最初の写真は、学年主任の山川先生の激励で、次の写真は廊下に掲示されている檄文です。1月の窓でも紹介しましたが、センター試験の後、新しいものに代わりました。



本校では、1月に図書委員会と家庭科部が共同でかるた取り大会を開催していま

す。昨年までは、百人一首を使っていましたが、今年は「山形方言かるた」を使うことになりました。この方言かるたは3～4年前発売され、話題になりましたが、今は第2弾も発売されているそうです。県内の方言を見ると、村山・最上・置賜・庄内の4地区で大きく異なるものもあれば、4地区共通のものもあります。ただ、最近の高校生はあまり方言を使わないので、わかるのかと心配しましたが、思ったよりよく知っていたようです。私は、庄内や置賜の高校にも勤務したことがあるので、たいていの方言はわかるつもりでいましたが、意外とわからないものもたくさんありました。どんな方言が入っているのか、少し紹介します。

「もっけだの こんげいっぺい もらっての」

「ありがたいね こんなに沢山 いただいて」という標準語訳がついていて、主に庄内と置賜で使われるとの説明がありました。「もっけだの」は庄内ではよく使いましたが、置賜ではあまり聞いたことがありません。

「ぎゃらごでも 手が出て足出て ベっきなる」

この標準語訳は「おたまじゃくしに 手や足が生えて カエルになる」とあり、主に村山と最上で使われるとのことでした。でも「ぎゃらご」は私自身、使ったことも聞いたこともありませんでした。

家庭科部は、出場者全員に「とら焼き」（どら焼きではありません）と紅茶を用意して、入賞者には賞品のアップルパイも作ってくれました。最初の写真は、真剣な目でカルタを取ろうとしているところ、次の写真は「とら焼き」とアップルパイです。



以前は、1月～2月は、運動部も文化部もシーズンオフでしたが、今はいろんな大会があり、本校生徒もいろんな活躍をしてくれました。男子ハンドボール部は、全国選抜大会の県予選に出場し、第4位という成績でした。全国出場はなりませんが、新年度が楽しみです。バスケットボールの県新人大会は、1月に開催さ

れるようになり、本校バスケット部は初戦に勝利しベスト8の成績でした。全国高校文化連盟将棋新人大会に出場した2年生女子生徒は、予選を勝ち上がり、ベスト16でした。この生徒は、女子バドミントン部の主将でもあり、運動部・文化部の両方で活躍しています。男子フェンシング部は、全国選抜大会の東北北海道予選で第5位となり、3月の全国選抜大会に出場することになりました。部活動以外でも、2年生女子生徒が、全国なぎなた選抜大会に出場することが決まっています。詳細は、本校ホームページの「山東通信1月号」に掲載してあります。

最後に、今月は山形市の「初市」を紹介します。山形市の初市は江戸時代初期から続く伝統行事で、野菜、初あめ、団子木の縁起物などの他、木工品や家庭用品の店舗も多く立ち並びます。その起源については、山形市観光協会のウェブサイトには次のような説明がありました。

最上義光公治世の当時、山形には定期の市が立つ市日町があり、それらの市の中心として十日町に「市神（いちがみ）」が祀られた。毎年1月10日に市神祭りとして十日町から七日町にかけて縁起物をはじめ様々なものを売る多くの露店が立ち並ぶようになったのが始まりといわれる。

今年の初市は、霞城公園内の県体育館でバスケットボールの新人大会のあった日で、1回戦の応援が終わった後2回戦まで時間があつたので、七日町通りに行ってきました。初市を見るのは20年ぶりくらいでしたが、写真のような人ばかりでした。次の写真は、小さい男の子とそのお姉さんでしょうか、2人で杵を持っているところです。最近、杵と臼で餅つきする人も少なくなったので、2人には珍しいものだったのでしょうか。

